

森のちゃれんが50周年フォトコンテスト 受賞作品

北海道博物館では、建造から50年を迎えた記念事業の一つとして「森のちゃれんが50周年フォトコンテスト」を開催し、2021年11月10日から2022年2月6日まで、当館の建物としての魅力を伝える写真、当館での思い出を伝える写真を募集しました。おかげさまで、総数112件のご応募をいただくことができました。ご応募くださった皆様、たいへんありがとうございました。これら応募作品について、北海道博物館では厳正に審査をおこない、計11点への授賞を決定しました。なお決定にあたっては、事前にゲスト審査員(=外部の有識者)3名からうかがった、各作品についてのさまざまなご意見を参考にしました。ゲスト審査員の皆様にも、記して感謝申し上げます。

《ゲスト審査員》 細田雅春さん(株式会社佐藤総合計画代表取締役社長、建築家)
佐々木育弥さん(ikuyasasaki photography、写真家)
松井則彰さん(一般財団法人北海道歴史文化財団)

2022年3月26日 北海道博物館

「建物」部門 最優秀賞



刻まれた歴史
三好加奈子さん
(撮影：2021年12月)

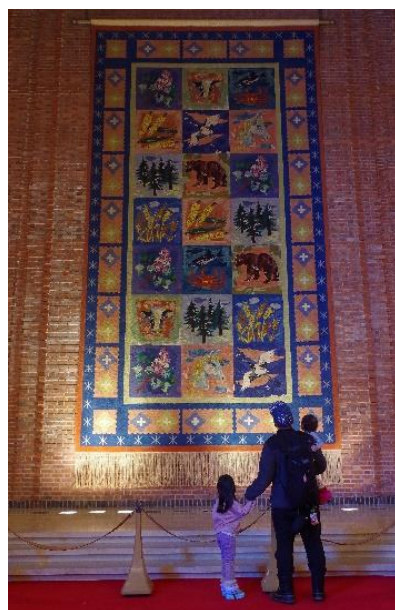
応募時の一言コメント

「歴史を感じる蹄鉄の壁と、モダンな椅子との対比が美しいなと思い、レンズを向けました」

馬蹄と椅子の組み合わせが北海道の歴史と分かちがたい「馬」「人」の記憶を喚起させる、サッシ本体ではなく影で写すなど光と影の捉え方の秀逸さ、空間のミニマムな捉え方が良い、などのゲスト審査員の意見をふまえ、「建物」部門の最優秀賞に決定しました。

*なお、この壁にこのように西日が射すのは、1年の中でも冬至頃の限られた時期だけです。(北海道博物館)

「思い出」部門 最優秀賞



彩りの会話
佐竹輝昭さん
(撮影：2022年1月)

応募時の一言コメント

「記念ホールで北海道の動植物の織り込んだタペストリーを見ていた時、パパと一緒に楽しいですね。…絵を書くの好きですか…パンダ、とり、おうまさんも書いたことあるよ。パパも大好き など、そんな会話がありました。楽しそうな笑顔で遊ぶ姿が印象的で、2年前の娘の結婚式を思い出し幸せな一時でした」

タペストリーの大きさが人物を配することで伝わってくる、2人の子どものそれぞれがタペストリーを見ている視線や、親子間の会話を想起させる瞬間をうまく捉えている、などのゲスト審査員の意見をふまえ、「思い出」部門の最優秀賞に決定しました。(北海道博物館)

「建物」部門賞



雪の日のちゃれんが

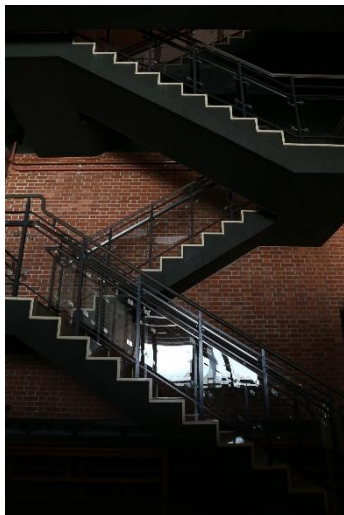
小川弘子さん
(2022年1月24日撮影)

応募時の一言コメント

「ちゃれんがは自然とよく調和する美しい建物です。森、樹木、花、空、雲、太陽、雨、雪、野鳥などなど…。この日は雪と建物が溶け合うような感じでした」

建物の写真としての構図の正確さ、設計当时に意識したテーマの一つである「冬」「雪」を捉えている、時間をかけて見るほどに良さが伝わる、などのゲスト審査員の意見をふまえ、「建物」部門賞に決定しました。

(北海道博物館)



映画の舞台

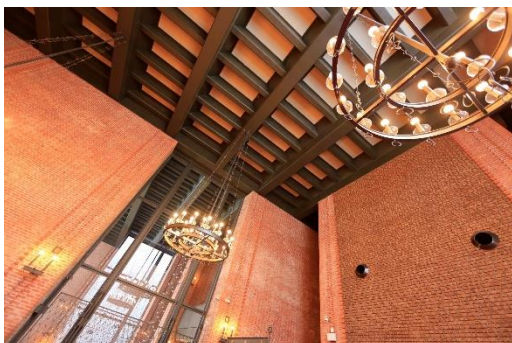
堂端あつ子さん
(撮影：2022年2月)

応募時の一言コメント

「『夷酋列像』展を見に行き出口から出た時にこの階段を目にしました。煉瓦の壁と階段が素敵で、すぐにウェストサイドの映画のイメージが広がりました。今回、建物というテーマを知り、ずっと気になっていた「あの階段を撮りたい！」と思いました。広い場所ではなく、後ろにも下がれず、脚立もなく…でしたがなんとかイメージ通りに撮れました。とても楽しい時間でした」

露出を下げエッジが見えすぎない撮り方がよい、当館の建物の新たな魅力である、階段への独創的な着眼、などのゲスト審査員の意見をふまえ、「建物」部門賞に決定しました。

(北海道博物館)



重 厚

大山末光さん
(撮影：2022年1月)

応募時の一言コメント

「天井の格子柄、壁面の煉瓦、シャンデリヤ全てにおいて重厚感あり記念ホールにふさわしい」

設計者のこだわりの一つでもあった「レンガに合う天井」の力強さ、空間の解放感が伝わる、などのゲスト審査員の意見をふまえ、「建物」部門賞に決定しました。

(北海道博物館)

「思い出」部門賞



花と百年記念塔

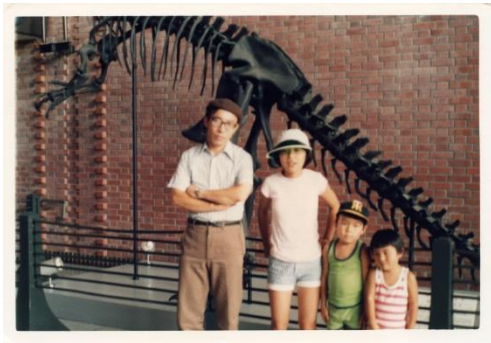
草嶋宏次さん

(撮影：2022年2月)

応募時の一言コメント

「約20年前、小学生の頃に遠足できて以来の博物館でした。百年記念塔と花の模様を撮っていると「塔を登った記憶、その塔の周りには花があり水が流れアメンボがいて友達と笑いながら走り回る」という記憶が蘇り懐かしく思いました。私にとって小学生の頃の大切な思い出を蘇らせてくれる写真になりました」

設計時のテーマでもあったアイアンワークの一つ「アイアングリル」を通して見る景色から、記憶と景色の結びつきが感じられる、などのゲスト審査員の意見をふまえ、「思い出」部門賞として決定しました。(北海道博物館)



お世話になっているお隣りの小母さん、お姉ちゃんと連れ立って、開拓記念館の玄関ホールで恐竜をバックに!!

青柳正英さん

(撮影：1978年夏頃)

応募時の一言コメント

「我家はS48年稚内に転勤となり53年に札幌に戻り、東区の官舎住居となりました。隣家とは職場の先輩で親しく幼稚園児の娘は、仕事を持つ妻が帰宅する迄そこに預ってもらいました。53年当時我家には自家用車があり、お礼を兼ねてよく森林公園には出掛けました。開拓記念館は開館して未だ7～8年で石炭、農耕馬、漁具などの産業展示や開拓期の生活展示が珍らしく多くの方が訪れていました。恐竜は今日程関心は高くなかったが珍らしく玄関ホールの恐竜をバックに記念撮影をしました。撮影者は隣の小母さんでカメラには不慣れのため人物のピンント、バックの恐竜の頭部も欠けていますが曲線二本が面白い我家の懐かしい思い出の写真です」

アナログ写真それ自体の魅力や構図の面白さなどについてのゲスト審査員の意見をふまえ、また北海道開拓記念館の頃の館内がうかがえる写真として、「思い出」部門賞に決定しました。(北海道博物館)



それぞれの黒電話

竹田由香里さん

(撮影：2017年9月)

応募時の一言コメント

「おじいちゃんは、懐かしさに「むむむ…」。孫娘は、楽しく「もしもし〜!」。世代がよく伝わる写真になりました。」

被写体二人の表情の魅力、世代間のギャップと交流などの物語性などについてのゲスト審査員の意見をふまえ、「思い出」部門賞に決定しました。(北海道博物館)

ゲスト審査員特別賞

〈細田雅春氏推薦〉



冬晴れに佇む

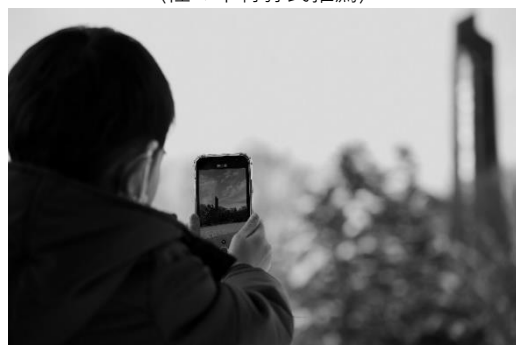
辻井久幸さん
(撮影：2022年1月)

応募時の一言コメント

「冬晴れの青い空と白い雲に映える森のちやれんがと百年記念塔のコラボです」

雪景色の中、原生林の木立と対照的な列柱を持つ博物館と背後に見える百年記念塔とが一緒になって、建物のゆるぎない力強さを感じさせるという細田雅春氏（ゲスト審査員）の意見をとくにふまえ、ゲスト審査員特別賞に決定しました。
(北海道博物館)

〈佐々木育弥氏推薦〉



北海道百年記念塔「新たな記憶として」

千葉瑛斗さん
(撮影：2022年1月)

応募時の一言コメント

「初めて百年記念塔を目の前にして言った5歳の息子の言葉。「あれ、カッコいいから写真撮りたい！パパ、スマホ貸して！」30年前に、使い捨てカメラで何枚も写真を撮っていた自分を思い出しました。」

構図・コメント・視点の良さ、使い捨てカメラからスマホの動画までの時代の移り変わり、その先の未来につながるメッセージを感じるという佐々木育弥氏（ゲスト審査員）の意見をとくにふまえ、ゲスト審査員特別賞に決定しました。
(北海道博物館)

〈松井則彰氏推薦〉



ちやれんがに並ぶ蹄鉄

村橋究理基さん
(撮影：2022年1月)

応募時の一言コメント

「記念ホールに掲げられたたくさんの蹄鉄が、ゆったりと流れる北海道博物館の雰囲気の中で佇んでいる様子が印象的でした。」

壁の年輪も捉えていることで、森を切り開いた先人の歩みなど、物語性を感じられるという松井則彰氏（ゲスト審査員）の意見をとくにふまえ、ゲスト審査員特別賞に決定しました。
(北海道博物館)

■フォトコンテスト入賞作品は、当館ウェブサイトの「**フォトコンテスト特設ページ**」でも紹介する予定です。
■右のQRコードで、当館の「**建築**」のページが開きます。このページ内に「**フォトコンテスト特設ページ**」につながるボタンがあります。



北海道博物館
2022年3月26日